

# 30年度 入学式を挙

## 日本歯科大学新聞

東京千代田区富士見  
日本歯科大学新聞会  
発行兼 中原 泉  
編集人  
発行日 偶数月末日  
定価 1部10円  
編集室 (〒951-8580)  
新潟市中央区浜浦町1-8  
☎025(267)1500



大学のシンボルマーク

### 晴れの新生たち

平成三十年度の日本歯科大学の入学式は、四月初旬、生命歯学部と新潟生命歯学部で挙行された。あわせて大学院の両研究科、東京短大、新潟短大の入学式が行われた。

#### 生命歯学部

生命歯学部の部は、四月六日に生命歯学部富士見ホールにおいて挙行された。

高橋孝幸事務部長より開式が宣せられ、学年主任

の福田雅臣教授による生命歯学部入学生、編入学生の点呼、ならびに研究科委員の志賀博教授による大学院生命歯学研究科入学生の点呼が行われた。

（要旨二面）。生命歯学部の福田雅臣教授による生命歯学部入学生、編入学生の点呼、ならびに研究科委員の志賀博教授による大学院生命歯学研究科入学生の点呼が行われた。

（要旨二面）。生命歯学部の福田雅臣教授による生命歯学部入学生、編入学生の点呼、ならびに研究科委員の志賀博教授による大学院生命歯学研究科入学生の点呼が行われた。

（要旨二面）。生命歯学部の福田雅臣教授による生命歯学部入学生、編入学生の点呼、ならびに研究科委員の志賀博教授による大学院生命歯学研究科入学生の点呼が行われた。

（要旨二面）。生命歯学部の福田雅臣教授による生命歯学部入学生、編入学生の点呼、ならびに研究科委員の志賀博教授による大学院生命歯学研究科入学生の点呼が行われた。

（要旨二面）。生命歯学部の福田雅臣教授による生命歯学部入学生、編入学生の点呼、ならびに研究科委員の志賀博教授による大学院生命歯学研究科入学生の点呼が行われた。

（要旨二面）。生命歯学部の福田雅臣教授による生命歯学部入学生、編入学生の点呼、ならびに研究科委員の志賀博教授による大学院生命歯学研究科入学生の点呼が行われた。

（要旨二面）。生命歯学部の福田雅臣教授による生命歯学部入学生、編入学生の点呼、ならびに研究科委員の志賀博教授による大学院生命歯学研究科入学生の点呼が行われた。

（要旨二面）。生命歯学部の福田雅臣教授による生命歯学部入学生、編入学生の点呼、ならびに研究科委員の志賀博教授による大学院生命歯学研究科入学生の点呼が行われた。

（要旨二面）。生命歯学部の福田雅臣教授による生命歯学部入学生、編入学生の点呼、ならびに研究科委員の志賀博教授による大学院生命歯学研究科入学生の点呼が行われた。

（要旨二面）。生命歯学部の福田雅臣教授による生命歯学部入学生、編入学生の点呼、ならびに研究科委員の志賀博教授による大学院生命歯学研究科入学生の点呼が行われた。

（要旨二面）。生命歯学部の福田雅臣教授による生命歯学部入学生、編入学生の点呼、ならびに研究科委員の志賀博教授による大学院生命歯学研究科入学生の点呼が行われた。

（要旨二面）。生命歯学部の福田雅臣教授による生命歯学部入学生、編入学生の点呼、ならびに研究科委員の志賀博教授による大学院生命歯学研究科入学生の点呼が行われた。

（要旨二面）。生命歯学部の福田雅臣教授による生命歯学部入学生、編入学生の点呼、ならびに研究科委員の志賀博教授による大学院生命歯学研究科入学生の点呼が行われた。

新潟生命歯学部  
は、四月四日に新潟生命歯学部講堂において挙行された。

東京短期大学  
の入学式は、四月六日午前十時三十分から生命歯学部富士見ホールにおいて挙行された。

（要旨二面）。生命歯学部の福田雅臣教授による生命歯学部入学生、編入学生の点呼、ならびに研究科委員の志賀博教授による大学院生命歯学研究科入学生の点呼が行われた。

（要旨二面）。生命歯学部の福田雅臣教授による生命歯学部入学生、編入学生の点呼、ならびに研究科委員の志賀博教授による大学院生命歯学研究科入学生の点呼が行われた。

（要旨二面）。生命歯学部の福田雅臣教授による生命歯学部入学生、編入学生の点呼、ならびに研究科委員の志賀博教授による大学院生命歯学研究科入学生の点呼が行われた。

（要旨二面）。生命歯学部の福田雅臣教授による生命歯学部入学生、編入学生の点呼、ならびに研究科委員の志賀博教授による大学院生命歯学研究科入学生の点呼が行われた。



入学生に訓辞を述べる中原泉学長（上・新潟、下・東京）



（要旨二面）。生命歯学部の福田雅臣教授による生命歯学部入学生、編入学生の点呼、ならびに研究科委員の志賀博教授による大学院生命歯学研究科入学生の点呼が行われた。

（要旨二面）。生命歯学部の福田雅臣教授による生命歯学部入学生、編入学生の点呼、ならびに研究科委員の志賀博教授による大学院生命歯学研究科入学生の点呼が行われた。

（要旨二面）。生命歯学部の福田雅臣教授による生命歯学部入学生、編入学生の点呼、ならびに研究科委員の志賀博教授による大学院生命歯学研究科入学生の点呼が行われた。

（要旨二面）。生命歯学部の福田雅臣教授による生命歯学部入学生、編入学生の点呼、ならびに研究科委員の志賀博教授による大学院生命歯学研究科入学生の点呼が行われた。

第30回記念 THE 30TH ANNUAL MEETING OF JAPANESE SOCIETY FOR LASER DENTISTRY

## 日本レーザー歯学会 総会・学術大会

テーマ 光と共に歩む歯科医療

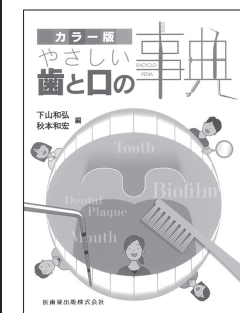
2018.10.20(土)-21(日)

会場 日本歯科大学 生命歯学部 富士見ホール  
〒102-8159 東京都千代田区富士見1-9-20

大会長 沼部 幸博  
日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座 教授

## カラー版 やさしい 歯と口の事典

下山 和弘・秋本 和宏 編



見やすく、わかりやすく、使いやすい工夫がいっぱい  
スタッフ教育・指導に必携のビジュアル事典！  
患者さんや多職種医療従事者とのコミュニケーションツールとして活用できる役立つ実用事典！！

■B5判 / 160頁 / カラー  
■定価 (本体 7,800円+税)

医歯薬出版株式会社  
https://www.ishiyaku.co.jp/ TEL. 03-5395-7630  
FAX. 03-5395-7633

# 中原泉学長 入学式訓辞

## ◇人生の規範とは

新入生諸君は新聞はあまり読まないだろうが、朝日新聞に「折々のことば」という連載コラムがある。昨年の秋、次のような言葉が載っていた。「わたしには『生きがい』を求めないから、どうも胡散臭い感じがします。生命を軽んずる心が隠されているからです」生きがいを求めるのは、生命を軽んずるのだという。こういう言葉に私はどうも釈然としなかった。

コラムの選者は、単なる生存ではなく、人として意義ある生活をしたいと考えるのは、いのちというものの傲慢でないか。人の生存を役に立つとか立たぬとか計ってはいけない。生きることにマルバツはないからと賛同していた。この選者は哲学者だということだが、人として意義ある生活をしたいと考えるのは傲慢だと言いつつ、マルバツはないから、役に立つ、役に立たないで人を計ってはいけないと説教している。

けれども遙か昔から、世の為、人の為につくすとか、人の役に立つ人になれ、とかいうのが人生の規範であり良識であるとされてきた。そこから人生の目標やモチベーションが生まれたのである。

このコラムの考え方の一つに思うところがある。この十番目のスマホについて、東北大学教授の書いた『スマホが学力を破壊する』という新刊書が出ています。同書はスマホによるメッセンジャーは集中力を阻害し、スマホを止めるだけで、偏差値が十ポイント上がるかと警告している。

いギャップを感じている。この十番目のスマホについて、東北大学教授の書いた『スマホが学力を破壊する』という新刊書が出ています。同書はスマホによるメッセンジャーは集中力を阻害し、スマホを止めるだけで、偏差値が十ポイント上がるかと警告している。

この新しいハードルと評価の到達点は六年後に卒業して学士（歯学）の学位を取得するということである。学士（歯学）というのは歯科医師国家試験を受験する資格を有する者という意味である。司法試験などと違って、学士（歯学）以外の者が歯科医師国家試験を受験することはできない。つまり歯科大学は歯科医師を養成することに特化した大学なのだ。

従って本学に入学した時点で諸君の目標と目的は定まっている。諸君の前には歯科医師になること以外に選択肢はない。このことを諸君はどれだけ自覚しているか、私には一抹の不安がある。

というのは、一つは諸君が入学後に歯科医学という学問に魅力を感じなくなるのではないかと、二つ目は入学したけれども実はほかの大学に未練があつて、頭切りの替えができないのでは無いだろうか。三つ目はどうしても本学が馴染めない。四つ目はどうも本学の学力に及ばない。そういう一年生が出てくるのではないか、という心配と懸念をもっている。理由は様々だろうが、本学において向学心が湧かない人は、できるだけ早く自分の本望の道に進路変更することをお勧めする。そういう学生は自分自身で本学での勉学に見切りをつけて、より自分のやりたい方向に進むことが、学生本人、ご父母、それから私も大学、この三者にとってベストとは言えないが、ベターだと思つている。潔く進路変更する一年生が、何十人出て本学は構わない。本学で

学びたいという人だけが残つてくれればよいのだ。◇人生にラクな道はない

新入生諸君、歯学部に入學したから、あとはベルトコンペアーに乗つたように、歯科医師のライセンスにたどり着くと思つて、より早計である。入学したことで歯科医師のサポートをゲットした、と喜ぶのは錯覚である。最近の歯科医師国家試験は大変難しい。今年の国家試験の合格率は七十五パーセントだった。つま

り受験者の四人に一人が不合格になる試験である。この国家試験に受かるか受からないか、これは受験生自身のことで、受験生の自己責任に帰すると言わざるを得ない。人生、楽しんでやっつけよう、人生なんとかなるだろう、と考えている人がたくさんいると思う。私もずいぶん長い人生を送ってきたが、人生は楽しいかないか、諸君の自己責任はすでに始まっているのだ。そういう甘さを心の中から払拭できるかである。（4月4・6日）



中原泉学長：これからは諸君には、本学での新しい評価とハードルが待っている…

## ◇スタートは同じ

さて話は変わるが、新入生諸君は、この日本歯科大学が第一志望だっただろうか。数年前の本学学生会の新入生のアンケートによると、本学が第一志望だった人は約六割だった。諸君の中には本学が第二志望だった、いや第三志望だった、たまに合格したから、滑り止めたという人もいます。しかし私には諸君の志望度については関心がない。大切なのは諸君がここ日本歯科大学に入学した、ということ

だけである。というのは、今までの偏差値とか志望度などは全部チャラになる。諸君はここで自分をリセットしなければならぬ。ここからみんな一線ですタートする。諸君には本学の新しいハードルと評価が待っている。

この新しいハードルと評価の到達点は六年後に卒業して学士（歯学）の学位を取得するということである。学士（歯学）というのは歯科医師国家試験を受験する資格を有する者という意味である。司法試験などと違って、学士（歯学）以外の者が歯科医師国家試験を受験することはできない。つまり歯科大学は歯科医師を養成することに特化した大学なのだ。

従って本学に入学した時点で諸君の目標と目的は定まっている。諸君の前には歯科医師になること以外に選択肢はない。このことを諸君はどれだけ自覚しているか、私には一抹の不安がある。

というのは、一つは諸君が入学後に歯科医学という学問に魅力を感じなくなるのではないかと、二つ目は入学したけれども実はほかの大学に未練があつて、頭切りの替えができないのでは無いだろうか。三つ目はどうしても本学が馴染めない。四つ目はどうも本学の学力に及ばない。そういう一年生が出てくるのではないか、という心配と懸念をもっている。理由は様々だろうが、本学において向学心が湧かない人は、できるだけ早く自分の本望の道に進路変更することをお勧めする。そういう学生は自分自身で本学での勉学に見切りをつけて、より自分のやりたい方向に進むことが、学生本人、ご父母、それから私も大学、この三者にとってベストとは言えないが、ベターだと思つている。潔く進路変更する一年生が、何十人出て本学は構わない。本学で

学びたいという人だけが残つてくれればよいのだ。◇人生にラクな道はない

新入生諸君、歯学部に入學したから、あとはベルトコンペアーに乗つたように、歯科医師のライセンスにたどり着くと思つて、より早計である。入学したことで歯科医師のサポートをゲットした、と喜ぶのは錯覚である。最近の歯科医師国家試験は大変難しい。今年の国家試験の合格率は七十五パーセントだった。つま

り受験者の四人に一人が不合格になる試験である。この国家試験に受かるか受からないか、これは受験生自身のことで、受験生の自己責任に帰すると言わざるを得ない。人生、楽しんでやっつけよう、人生なんとかなるだろう、と考えている人がたくさんいると思う。私もずいぶん長い人生を送ってきたが、人生は楽しいかないか、諸君の自己責任はすでに始まっているのだ。そういう甘さを心の中から払拭できるかである。（4月4・6日）

の診療を完璧にこなせないことを自覚したのでないだろうか。日常臨床において知識と技術というのは表裏一体であることが重要だ。若手歯科医師にとつて最も重要なものは、まず基本的な治療技術の習得、すなわち基礎固めだ。はじめは時間がかかるのは当然だから、焦らずに基本的で丁寧な治療を心がけるべきだ。臨床系講座の大学院生は診療も授業の一環だと考

え、特に専攻分野における診療技術を高めていたきたい。さて研究について諸君はどのように考えているのだろうか。これから何の研究したいのか。大学院への進学にあたって、象牙質接着システムの開発と評価にテーマをおいた研究が盛んに行われていた。しかし最近では接着システムの研究が長期耐久性や抗菌性、あるいは新規修復材料の接着にテーマをおいた研究が主流となっている。時代背景もあつて昨今研究倫理が重要視されているが、医療人たる者は常識的な倫理はわきまえているはずだ。大学院新入生に対して研究倫理教育を行うが、しっかりと育つていくことが、現状において本学における研究推進の原動力は間違いなく諸君ら大学院生の若い力にある。諸君の獅子奮迅の活躍を大いに期待している。（4月4日）

# 大学院研究科長 訓辞

生命歯学研究科長 八重垣 健



大学院を卒業し博士号を取るには、今までにな

い想像もつかない厳しさを乗り越えなければいけない。本研究科では博士号申請の前に、博士論文の出版を学術誌が認めなければならぬ。その学術誌は英語国際誌、そして学術誌のレベルをあらわすインパクトファクターという評価点のついた権威ある学術誌を取るには、今までにな

が望まれる。昨年度の博士論文は十二本あった。一階のロビーに展示している。十一本はインパクトファクターがついており、なんと九割以上だ。これは並大抵の努力ではできない。みなさんが今までに受けてきた試験では、受験勉強のみで合格したこともあるだろう。しかし大学院は四年の間、絶え間ない努力が必要であ

る。大学院の勉強は合格点をとる勉強ではない。自分自身を磨く勉強である。本日のみなさんの入学式は最高学府、大学院博士課程の入学式だから大学院生に必須の名言を紹介させていただきます。アップルコンピュータの創設者でありながら、一度クビになり、その後つぶれかけた同社を再建したスティーブ・ジョブ

スの名言「Stay hungry, stay foolish」この言葉がみなさんには必要だ。これは実は一九七〇年代の環境活動家、スチュアート・ブランドの言葉である。最初は「力と富と上手に付き合え」という意味だった。ところが大学院生が世の教授連を凌ぐ者ではなく教わる者なのだ。学生がうぬぼれると Stay hungry, stay foolish 馬鹿であり続けよう、負け組になれ」とその解釈を変えた。科学者は自分に満足したら終わりである。科学者である限り、一からのやり直しを続け、 Stay hungry, stay foolish する。（4月6日）

パクトファクター付きの国際誌に学位論文を掲載することだが、目標をさるに高いところにおいてこれから所属する学会の発表賞や論文賞をめざしてみてはどうかだろう。現状において本学における研究推進の原動力は間違いなく諸君ら大学院生の若い力にある。諸君の獅子奮迅の活躍を大いに期待している。（4月4日）



宣誓する入学生代表（上・東京、下・新潟）



シオンが生まれたのである。このコラムの考え方の一つに思うところがある。この十番目のスマホについて、東北大学教授の書いた『スマホが学力を破壊する』という新刊書が出ています。同書はスマホによるメッセンジャーは集中力を阻害し、スマホを止めるだけで、偏差値が十ポイント上がるかと警告している。

いギャップを感じている。この十番目のスマホについて、東北大学教授の書いた『スマホが学力を破壊する』という新刊書が出ています。同書はスマホによるメッセンジャーは集中力を阻害し、スマホを止めるだけで、偏差値が十ポイント上がるかと警告している。

この新しいハードルと評価の到達点は六年後に卒業して学士（歯学）の学位を取得するということである。学士（歯学）というのは歯科医師国家試験を受験する資格を有する者という意味である。司法試験などと違って、学士（歯学）以外の者が歯科医師国家試験を受験することはできない。つまり歯科大学は歯科医師を養成することに特化した大学なのだ。

従って本学に入学した時点で諸君の目標と目的は定まっている。諸君の前には歯科医師になること以外に選択肢はない。このことを諸君はどれだけ自覚しているか、私には一抹の不安がある。

というのは、一つは諸君が入学後に歯科医学という学問に魅力を感じなくなるのではないかと、二つ目は入学したけれども実はほかの大学に未練があつて、頭切りの替えができないのでは無いだろうか。三つ目はどうしても本学が馴染めない。四つ目はどうも本学の学力に及ばない。そういう一年生が出てくるのではないか、という心配と懸念をもっている。理由は様々だろうが、本学において向学心が湧かない人は、できるだけ早く自分の本望の道に進路変更することをお勧めする。そういう学生は自分自身で本学での勉学に見切りをつけて、より自分のやりたい方向に進むことが、学生本人、ご父母、それから私も大学、この三者にとってベストとは言えないが、ベターだと思つている。潔く進路変更する一年生が、何十人出て本学は構わない。本学で

学びたいという人だけが残つてくれればよいのだ。◇人生にラクな道はない

新入生諸君、歯学部に入學したから、あとはベルトコンペアーに乗つたように、歯科医師のライセンスにたどり着くと思つて、より早計である。入学したことで歯科医師のサポートをゲットした、と喜ぶのは錯覚である。最近の歯科医師国家試験は大変難しい。今年の国家試験の合格率は七十五パーセントだった。つま

り受験者の四人に一人が不合格になる試験である。この国家試験に受かるか受からないか、これは受験生自身のことで、受験生の自己責任に帰すると言わざるを得ない。人生、楽しんでやっつけよう、人生なんとかなるだろう、と考えている人がたくさんいると思う。私もずいぶん長い人生を送ってきたが、人生は楽しいかないか、諸君の自己責任はすでに始まっているのだ。そういう甘さを心の中から払拭できるかである。（4月4・6日）

の診療を完璧にこなせないことを自覚したのでないだろうか。日常臨床において知識と技術というのは表裏一体であることが重要だ。若手歯科医師にとつて最も重要なものは、まず基本的な治療技術の習得、すなわち基礎固めだ。はじめは時間がかかるのは当然だから、焦らずに基本的で丁寧な治療を心がけるべきだ。臨床系講座の大学院生は診療も授業の一環だと考

え、特に専攻分野における診療技術を高めていたきたい。さて研究について諸君はどのように考えているのだろうか。これから何の研究したいのか。大学院への進学にあたって、象牙質接着システムの開発と評価にテーマをおいた研究が盛んに行われていた。しかし最近では接着システムの研究が長期耐久性や抗菌性、あるいは新規修復材料の接着にテーマをおいた研究が主流となっている。時代背景もあつて昨今研究倫理が重要視されているが、医療人たる者は常識的な倫理はわきまえているはずだ。大学院新入生に対して研究倫理教育を行うが、しっかりと育つていくことが、現状において本学における研究推進の原動力は間違いなく諸君ら大学院生の若い力にある。諸君の獅子奮迅の活躍を大いに期待している。（4月4日）

パクトファクター付きの国際誌に学位論文を掲載することだが、目標をさるに高いところにおいてこれから所属する学会の発表賞や論文賞をめざしてみてはどうかだろう。現状において本学における研究推進の原動力は間違いなく諸君ら大学院生の若い力にある。諸君の獅子奮迅の活躍を大いに期待している。（4月4日）

### 短期大学学長 訓辞

東京短期大学学長

奈良陽一郎



新入生のみなさんに質問したい。誕生から今までの間に、一度も内科、外科、あるいは歯科の病院、医院を受診したことがない人は、手を挙げてほしい。何故こんなことを聞くのかと思うかもしれない。それは医療は行者のためではなく、受ける側の者のためにあるからだ。患者さん、国民の辛さ、痛み、苦しさを、悲しみ、そういう負の部分に寄り添い支え、そして明るい生活、豊かな生活、幸せな生活を歯科医療人として支えることができるかという点だ。

すなわち医療を受けたことがない人は一人もないから、患者さんの立場になって医療を受けたことがある、患者さんの辛さ、苦しさを、悲しみを経験したことがある、これが医療人としてとても大切なことだと思う。みなさんは本学において医療人としての一歩を踏み出す。今日入学式の場に座っていて、これからどういふことを学ぶのだろうか、結構ストレスがあるのだろうか、難しいことを身につけなければならないのかと不安に思うと同時に、将来患者さんに対してどれほど支えてあげることができるといふ期待感、いわゆるワクワク・ドキドキ感を心の中にフツツと感じていると思う。教職員は丸と成り、みなさんを支え、将来胸をはって、歯科技工士、歯科衛生士としての第一歩を踏み出せるよう支えていきたい。

東京短期大学では、本学の専任教職員のみならず、日本歯科大学生命歯学部、非常優秀なベテランの先生方のお力添え、そして附属病院のスキルに長けた先生方の導きでみなさんを支えることを情熱をもって取り組んでいく。学びの環境と

医療は受ける者のためにあると述べる奈良学長



点呼に応じて起立する入学生たち(東京短大)

という意味において、日本の歯科衛生士、歯科技工士のレベルのクオリティーを提供できることは全く疑う余地がない。歯科界は大きな変換期を迎えている。わが国は世界の最先端をいく超高度な患者国民のみならず、

多様な疾患をもち、高齢の患者さんに対して診療室とは異なる医療の現場で行っていただくことが求められる時代となった。その現場で、みなさんが知識の部分、そしてスキルの部分でエキスパートとしての技能、知識、態度習慣を身につけた人材として寄与していく。医療人として寄り添い、対応していくことが、これから私たち歯科医療人に求められる。本学では、患者国民が期待する歯科衛生士、歯科技工士、そして専攻科における衛生学分野、技工学分野のエキスパートを育てていきたい。(4月6日)

#### 大学院入学生

平成三十年度日本歯科大学大学院生命歯学部研究科入学生十名、新潟生命歯学部研究科入学生一名は次の通り。  
(生命歯学部研究科)  
微生物学 石川結子  
歯科保存学 小林 鷹  
歯科保存学 根岸 翼  
歯科補綴学Ⅰ 佐野眞子  
口腔外科学 稲田 諒  
歯科矯正学 馬場龍一  
歯周病学 宮下幸大  
歯周病学 山崎 桂  
接着歯科学 岡田美里  
臨床口腔機能学 加藤陽子  
(新潟生命歯学部研究科)  
歯周機能治療学 武内柚香里

学、新潟短期大学の学年主任は次の通り(カッコ内数字は学年、下段は副主任)  
(生命歯学部)  
(1)福田雅臣 前田宗宏  
(2)那須優則 鈴木麻美  
(3)砂田勝久 岩原香織  
(4)高橋幸裕 上田容子  
(5)北村和夫 岩田 洋  
(6)添野雄一 田代有美子  
(7)永田和裕 青木春美  
(8)佐藤義英 村櫻悦子  
(9)中野 彰 山崎孝子  
(10)岡田康男 阿部恵一  
(11)遠藤敏哉 北 大樹  
(12)清水公夫 井出吉昭  
(13)石黒一美  
(14)高塩智子  
(15)岡 俊哉  
(16)新井恭子  
(17)北島佳代子  
(18)二宮一智  
(19)清水公夫

#### 学主任

平成三十年度日本歯科大学生命歯学部、新潟生命歯学部、東京短期大学歯学部、東京短期大学生命歯学部の主任は次の通り  
(東京短期大学)  
○歯科理工学科 (6)佐藤 聡 長谷川優  
○歯科衛生学 (1)竹井利香 小泉順一  
(2)雲野泰史 横山和良  
○歯科衛生学 (1)野村正子 浦野瑠子  
(2)市川順子 小倉千幸  
(3)関口洋子 池田亜紀子  
○専攻科歯科理工学専攻 (1)尾崎順男 富田 淳  
(2)尾崎順男 富田 淳  
○専攻科歯科衛生学専攻 (1)尾崎順男 富田 淳  
○専攻科口腔リハビリテーション学専攻 (1)合場千佳子 須田真理

#### 新潟短期大学学長 佐野 公人

日本歯科大学は東京と新潟に二つの大学院、二つの歯学部、三つの附属病院、二つの短期大学と博物館を擁し、卒業生二万人を超える、世界一の歯科大学である。

出している。当短期大学の特徴は、新潟生命歯学部と共有のキャンパスで、短期大学専任の教授陣、教育スタッフと、生命歯学部の教育スタッフからの高度な教育指導により創立から本年末まで歯科衛生士国家試験百パーセントを維持している。

また図書館、実習室、体育館など充実した設備の利用、クラブ活動などを通して、生命歯学部学生との交流など、非常に恵まれた環境下で学生生活をおくることができるという特徴を有している。短期大学基準協会による第三者評価で認定を受けていることもそれを裏付けている。さらに卒業生からは校友会組織が非常に充実しており、講演会や講習会など、卒

また歯科衛生士に必要とされる知識や技術も時代とともに変化してきている。それは社会のニーズに対応するものであり、人口年代構成の変化や有病者率、疾病構造の変容によるものである。高血圧や心臓病、脳血管障害など寝たきりになる疾患が増加し、現在

人あまりの認知症患者など、われわれが特別な配慮を必要とする患者さんは、増加の一途を辿っている。そのような環境下で歯科衛生士に求められる資質は単に歯科医師のパートナーとしてだけでなく、疾病に対する理解と対応を兼ね備えた、時には自身で判断する、実践できる能力が必要となる。それは介護保険の導入により歯科衛生士が訪問歯科診療、訪問口腔ケアなどに対応するばかりではなく、介護と看護をも兼ね備えるという必要性からである。

われわれ教職員はそのような歯科衛生士を育成すべく全力でみなさんをサポートする。みなさんも三年後の三月に笑ってその日を迎えることがで

さるよう、決意を新たに学生生活を送っていただきたい。(4月4日)

新潟生命歯学部の医の博物館は、本年九月で開館三十周年を迎えることを記念して、九月十一日から十七日まで特別展を開催することになった。展示品は歯科の風俗にちなんだ博物館所蔵の浮世絵、神奈川県歯科医師会・歯の博物館館長の大野肅英先生(第五十一回卒)と同館特別委員の羽坂勇司先生(第四十一回卒)のご厚意により、両先生が愛蔵されている浮世絵やヨーロッパの版画などを一般公開する。

上野・科博の人体展 五十万人が来場 上野の国立科学博物館では三月から六月まで特別展「人体」を開催した。本学では主催者側の企画趣旨に基づき、医の博物館からはヨーロッパの古医書、頭頸部の蠟模標本などを出展した。同特別展は、休日は入場まで二、三時間待ちという大盛況で、会期終了までに、延べ四十九万五千人が訪れたという。



佐野学長の訓辞に聞き入る入学生たち



全員で歯科医療人としての第一歩(新潟短大)



新潟短期大学は、学校法人日本歯科大学を設立母体として一九八三年に附属専門学校として開校した。四年後には短期大学に昇格し、今年で三十三回目の卒業生を迎えた。卒業生の総数は千六百名を超えるかなりの数を輩

出している。当短期大学の特徴は、新潟生命歯学部と共有のキャンパスで、短期大学専任の教授陣、教育スタッフと、生命歯学部の教育スタッフからの高度な教育指導により創立から本年末まで歯科衛生士国家試験百パーセントを維持している。

また図書館、実習室、体育館など充実した設備の利用、クラブ活動などを通して、生命歯学部学生との交流など、非常に恵まれた環境下で学生生活をおくることができるという特徴を有している。短期大学基準協会による第三者評価で認定を受けていることもそれを裏付けている。さらに卒業生からは校友会組織が非常に充実しており、講演会や講習会など、卒

また歯科衛生士に必要とされる知識や技術も時代とともに変化してきている。それは社会のニーズに対応するものであり、人口年代構成の変化や有病者率、疾病構造の変容によるものである。高血圧や心臓病、脳血管障害など寝たきりになる疾患が増加し、現在

われわれ教職員はそのような歯科衛生士を育成すべく全力でみなさんをサポートする。みなさんも三年後の三月に笑ってその日を迎えることがで

### 9月に開催 医の博物館30周年記念 展

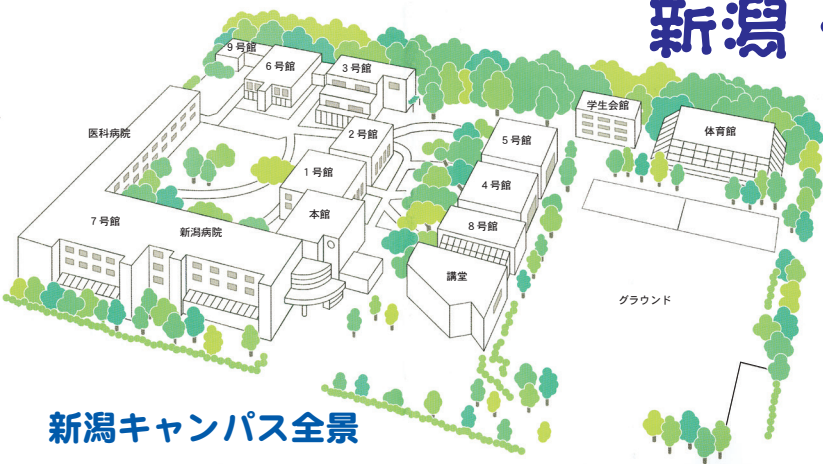
#### 示会場に初公開の浮世絵を



新潟生命歯学部の医の博物館は、本年九月で開館三十周年を迎えることを記念して、九月十一日から十七日まで特別展を開催することになった。展示品は歯科の風俗にちなんだ博物館所蔵の浮世絵、神奈川県歯科医師会・歯の博物館館長の大野肅英先生(第五十一回卒)と同館特別委員の羽坂勇司先生(第四十一回卒)のご厚意により、両先生が愛蔵されている浮世絵やヨーロッパの版画などを一般公開する。

上野の国立科学博物館では三月から六月まで特別展「人体」を開催した。本学では主催者側の企画趣旨に基づき、医の博物館からはヨーロッパの古医書、頭頸部の蠟模標本などを出展した。同特別展は、休日は入場まで二、三時間待ちという大盛況で、会期終了までに、延べ四十九万五千人が訪れたという。

# 新潟・グラウンド全天候型人工芝に改修



新潟キャンパス全景



昼休み、木陰で涼む(グラウンドと浜浦小学校を望む)



シュートがキマる!六角形のゴール・ネット



キャッチボールを楽しむ放課後の学生たち



全天候型ウレタン舗装材、陸上練習コース



テニスコートと人工芝のサッカー・ラグビーコート

新潟生命歯学部では、昨年末から浜浦小学校よりのグラウンドの改修工事を進めてきた。本年は大雪の影響で工事が遅延したが、四月末に整備が完了した。改修したグラウンドは人工芝を敷いた全天候型で、サッカーやラグビーなどの競技に使用できる。また道路側には新たにテニスコート四面を設置し、体育館側には、茶褐色のウレタン舗装材を敷いて陸上競技の練習用コースを造成した。

## 辞令

歯学博士 宮川 行男  
歯学博士 代居 敬  
名誉教授の称号を授与する  
平成三十年四月一日 日本学博士(水産学) 南雲 保  
名誉教授の称号を授与する  
藤本沙也加  
医療職員(看護師)として採用する(附属病院)  
平成三十年五月一日 日本学

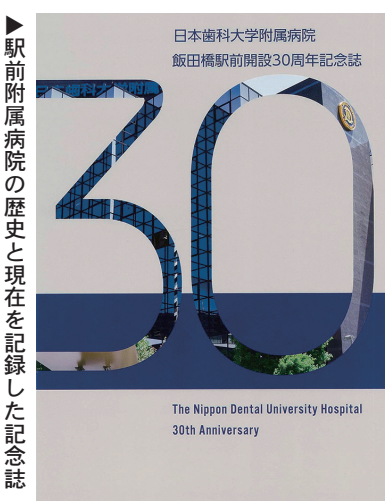
## 南雲教授(東京)最終記念講義

生命歯学部自然科学教室(生物学)の南雲保教授の最終記念講義が四月二十三日、生命歯学部九段ホールで開催された。午後六時から開講した記念講義の演題は「珪藻の世界——微細の自然芸術——」で、学生、大学院生、教職員、関係者などが多数聴講し、講義終了後



中原泉学長から記念品が手渡された(写真)。南雲教授は昭和四十九年三月日本大学農獣医学部を卒業し、五十三年三月東京学芸大学大学院教育学専攻の修士課程を修了。同年九月日本学生物学助手、六十年四月講師、平成十年四月助教を経て、十四年十月教授に就任した。生命歯学部では教務部副部長や学生部長等を歴任した。

**東京・附属病院 30周年記念誌刊行**  
 本学は昭和三十年(一九五五)に国電飯田橋駅西口駅前の土地二二〇一坪余を取得した。同地は江戸時代牛込御門を警護する旗本の武家屋敷の跡地で、その当時はカトリックの女子修道会の寮が建てられており、本学寮として使用していた。



駅前附属病院の歴史と現在を記録した記念誌

それから三十二年余を経て、富士見キャンパスの本館改築に伴い、昭和六十二年(一九八七)、飯田橋駅前に新病院を新築した。この附属病院には七十八回卒業予定者まで一〇八回卒業予定者までが登院している。附属病院は、昨年十月に、駅前移転三十周年を迎え、既報のように記念祝賀会と記念講演会を開催した。このたび『日本歯科大学附属病院飯田橋駅前開設30周年記念誌』を刊行し、関係者に配付した。同冊子はA4版二十八頁、駅前に移転してからの歴史と現在の診療各科を紹介している。



新潟生命歯学部歯科保存学第二講座の新海航一教授は、平成二十九年度日本歯科理工学会論文賞を受賞した。

## 新海教授(新潟)歯科理工学会論文賞

賞し、四月十四・十五日に大阪府枚方市の大阪歯科大学で開催された平成三十年度春期第七十一回日本歯科理工学会学術講演会・総会で授賞式が行われた(写真)。

受賞した論文は、  
 「Koichi SHINKAI, Yoshihisa TAIRA, Satoki KAWASHIMA, Shiro SUZUKI and Masaya SUZUKI: Histological evaluation of direct pulp capping with all-in-one adhesives in rat teeth」二〇一七年刊行の歯科理工学会英文誌『Dental Materials Journal』三十六巻二号に掲載されたものである。

## 第37回 日本接着歯学会学術大会

接着を活かした  
 修復治療は  
 どこまで可能か!?

2018年  
 11/10 [土] - 11 [日]

大会長  
 新海航一  
 日本歯科大学新潟生命歯学部歯科保存学第2講座 教授



HAMAURA FESTIVAL 2018

# 第47回 浜浦祭

VIVIDNESS ~鮮変万華~

模擬店  
 学生による無料歯科相談  
 オープンキャンパス etc...

6.9[sat] >>10[sun]

6.10[sun] 13:00~  
 石川界人・赤羽根健治  
 トークショー

6.10[sun] 14:30~  
 石川界人・赤羽根健治  
 トークショー

Hamaura fes.

THE NIPPON DENTAL UNIVERSITY